

2020 年度前期 授業改善アンケート集計結果

2020 年 2 月 5 日
教務委員 京相 雅樹

1. データ概要

表 1 概要

集計科目数	18 科目 (R1:21,H30:21, H29:23, H28:17, H27:17, H26:22, H25:19, H24:15, H23:16)
平均回収率	54.3% (登録者数に占める割合) (R1: 80.1%, H30:85.0%, H29:90.8%, H28:88.0%)

2. 各項目の評価点

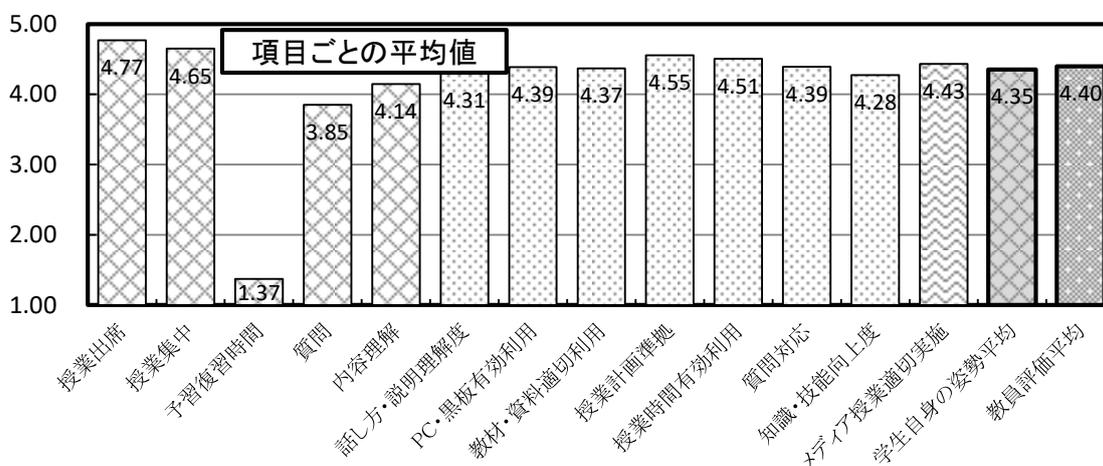


図 1 平均評価点

表 2 アンケート項目

●学生として	●授業について
① 遅刻や欠席をせずに出席しましたか	⑥ 話し方や説明は分かりやすかったですか
② 居眠りや私語をせず授業に集中しましたか	⑦ コンピュータ、黒板などの使い方は適切でしたか
③ 授業1回に対し宿題を含めた予復習を何時間しましたか (右の数字は時間)	⑧ 教材(テキスト、プリントなど)の使い方は適切でしたか
④ わからないときに質問をしましたか	⑨ 授業計画(シラバス)に沿って授業が展開されましたか
⑤ 授業の内容は十分に理解できましたか	⑩ 授業時間を有効に使っていましたか
	⑪ 質問に適切に対応してくれましたか
	⑫ 総合的にみてこの授業で力は付きましたか
	●施設について
	⑬ メディア授業は適切に実施されましたか

※ 平成 29 年度から「授業評価アンケート」となり、質問項目が変更された

3. 対応するアンケート項目の年次推移

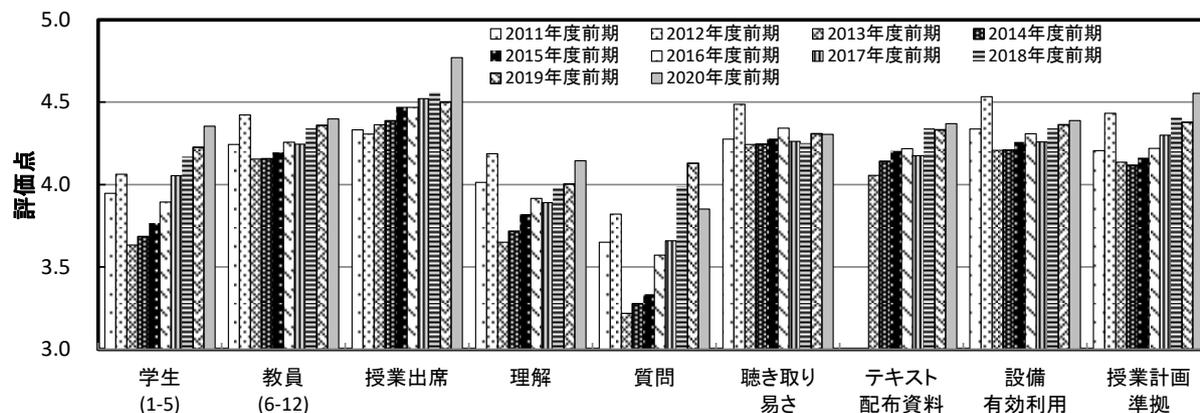


図 2 対応する項目の年次推移

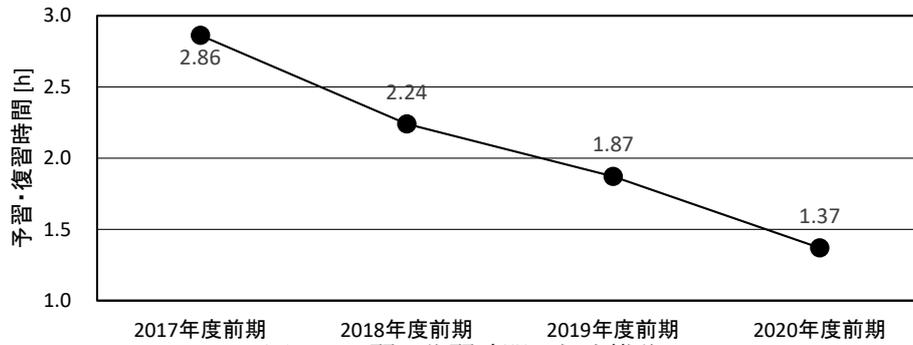


図3 予習・復習時間の年次推移

4. 科目ごとの詳細データ

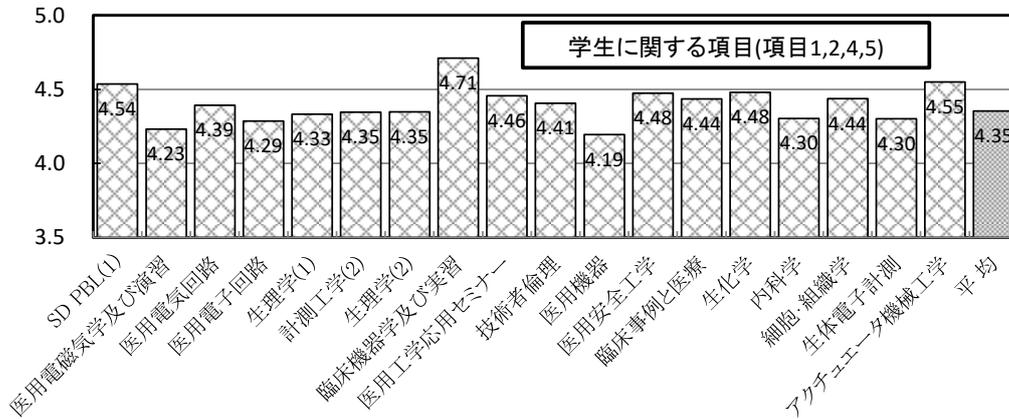


図4 学生に関する項目の平均値(科目ごと)

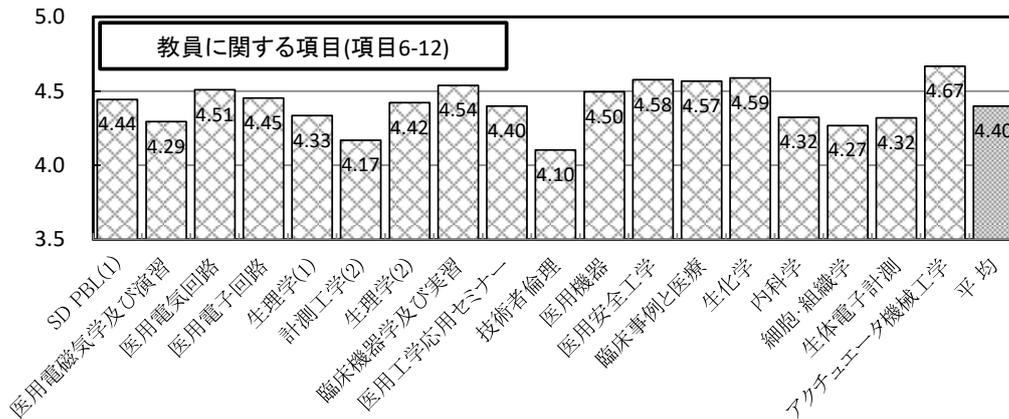


図5 教員に関する項目の平均値(科目ごと)

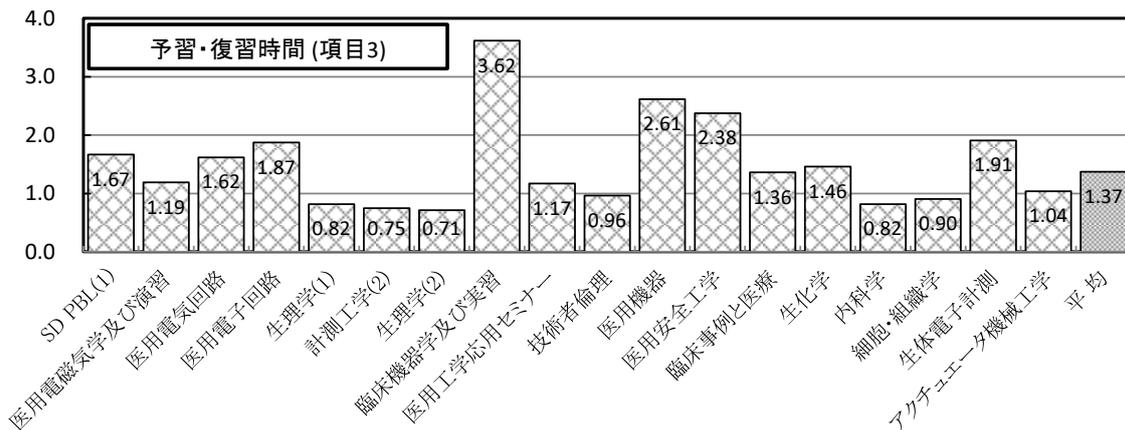


図6 予習・復習時間(科目ごと)

5. データについての考察

5.1 平均評価点について

図1に示された項目ごとの平均評価点について考察する。項目番号とアンケート項目の対応は表2の通りである。

(1) 項目 1,2：授業への出席と居眠りや私語

両項目ともに、非常に高い値となっている。項目1については、遠隔授業がほとんどであり、通学の必要がなかったことが大きいと考えられる。また、授業中友人とすぐに話ができる環境ではなかったため、項目2も高い値になったと考えられる。

(2) 項目 3：予習・復習

実習科目を含めて集計しているが、1科目平均4時間にはまだ遠い状況である。シラバスに授業回ごとの予習復習事項を記載するようになったことから、その存在を学生に認識させることと、内容を毎年改善してゆくことで予習・復習時間は改善が見込めるのではないかと思われる。

(3) 項目 4：質問

予習・復習時間の項目以外では最低値となっている。遠隔授業で環境が変わり、質問しにくい状況になっていた可能性がある。

(4) 項目 6～12：教員に関する項目

平均で4.40となっており、平均的には高い水準にある。科目ごとのばらつきがあるので、平均を下回っている科目について改善を加えることにより、さらに向上することが期待される。

5.2 データの推移について

図2より、「聞き取りやすさ」以外の項目は年々向上していることが分かる。「聞き取りやすさ」の項目はここ数年変化がなく、どのような改善が考えられるのか、検討する必要がある。「授業への出席」については昨年度まで飽和状態となっていたが今年度は高い値を示している。これは遠隔授業の実施により自宅で受講できるようになったことが関係していると考えられる。一方で、昨年度まで上昇を続けていた「質問したか」の数値が低下している。これは、受講環境の変化により質問がしにくい状況になっていたと考えられる。

また、図3より、予習・復習の時間は年々低下していることが分かる。これについては、シラバスに記載する予習・復習内容をより具体的なものとするとともに、学生の内容をしっかりと確認するように周知することで改善できるのではないかと考えられる。

5.3 科目ごとの評価について

図4, 5より、数値自体は高い値を示しているが、科目ごとに評価点にばらつきがあることが分かる。各教員は、別表の詳細データをもとに、どの項目をてこ入れすべきかについて考察することにより、次年度の実施に向けて改良を効率的に行うことが可能となる。